

# 食を必要とする "1人"のために



特定非営利活動法人フードバンクTAMA  
〒191-0062 日野市多摩平2-12-4  
TEL:080-6814-3657  
Email: foodbank.tama@gmail.com  
URL: http://www.foodbank-tama.com

## 共助のちからで前へ

2016年に法人化して今年で5年目に入りました。折しも2019年暮れから発生した新型コロナウイルス感染症拡大の影響は凄まじく、色々な事を新たに考えるきっかけとなりました。人が動かないと物も動かない…これ程の災禍では自助の力はとても無力で、公助は中々進まず、頼るのは共助だけになります。地域の子供達を地域の力でサポートしたいとの想いでフードバンクを立ち上げましたが、この災禍では困窮家庭の増加と、更に増える孤食のお年寄り達等、様々な支援先が目の前に広がったことにより、いきおい子供達以外への支援も行う様になりました。

一方子ども食堂では、このウイルスの影響でここ2年近く食堂 자체を開催できず、子供たちの居場所が無くなりました。その様な中で各食堂は自ら食料配付・パンツリーを開始し、子ども達や母親との繋がりを保ちながら食堂再開を待ち望みつつ活動を続けています。また、この食料品配付には、今まで子ども食堂を利用していない新規の方々を多く見かけるようになつたと伺いました。大学生も社会人もお年寄り達も確実に増えたとのお話を胸が締め付けられました。バイトができなくなったり、時間数が減らされたり、仕事を切られたり…物が動かない事は巡って生活基盤が揺らいでいくを感じるようになりました。

このパンツリーで配付する食料品をTAMAでは食品関連企業各社の協力をいただき、受贈量も昨年の2倍ほどに伸び、それに伴い寄贈も増え続けております。TAMAの活動が認可されるのは嬉しいですが、それは目指している世界ではないように思います。各企業でのSDGsの取り組みが進展してきたことにより、問い合わせや相談・寄贈の申し出なども多くなってまいりました。持続可能な開発目標の17項目の1番目は「貧困をなくそう」です。国をあげてこの問題に取り組むべきですが「公助」を待っている余裕は無くなっていました。

感染者数は幸いなことに落ち着いてきておりますが、オミクロンの蔓延も気になります。あの生活に戻るのはまだまだ厳しく、アフターコロナを論じるのは時期尚早に感じられます。よって、引き続きフードバンク活動は必要とされます。

皆様のご支援を頂戴しながら、「出来る人が出来る時に出来る事を出来るだけ決して無理なく」「共助」のボランティア活動に参画して頂けたらと切に願います。

神山 治之 (理事長)

## これからも元気いっぱい続けます！

多摩川を挟んだ隣接地の昭島市で居場所づくりの活動をしていた時、若いパパさん（主夫の方もいました）達が開いていたサロンメンバー数名の方が市内で最初の子供食堂を運営し始めました。また高齢者のサロンで“食べる事は生きる事・生きる事は食べる事”を趣旨として活動している方々とも知り合い、それぞれの活動団体の食事づくりのお手伝いを始めました。そして自然とフードバンクの話題が上がり興味を持ち、フードバンクTAMAの初期の頃にお話を伺ったのが最初の出会いでした。その後の経緯をお話します。

①立川市・昭島市のお届け先への配送依頼がありましたが、この時はご協力出来ませんでした。②その後昭島市内の子供の居場所づくり活動をしていた団体が、食事提供の為フードバン

クTAMAより支援を頂くようになりました。  
③その後0歳から100歳まで、年齢・独身・家族・男女問わず、どなたでも気軽に集まる居場所での食事提供の為、再度支援のお願いにフードバンクTAMAにお伺いしました。  
④食事提供場所の運営は順調でしたが、新型コロナ感染症の為活動を休止しました。しかし、お弁当や物品の配布も考えなければならず、市内にフードバンク・パンツリー等の必要性に迫られました。そこでフードバンクTAMAに相談・協力のお願いをした結果、フードバンク等の活動が出来るようになりました。⑤人と人の繋がりの中で新ためてフードバンクの活動を謙虚に見直し見つめ直す機会として、ボランティア活動に参加させて頂き現在に至っています。

村松 和明 (パンツリー担当ボランティア：昭島市)

食品企業様や個人の方から多くの食品が届けられました。ありがとうございました。

受贈▶ 主食 : 45245 キロ 野菜 : 27147 キロ 調味料 : 7239 キロ 飲料 : 6334 キロ 菓子等 : 4524 キロ

2020.10～2021.9の間、児童福祉施設・子ども食堂等へ寄付した食品の種類

提供▶ 主食 : 44813 キロ 野菜 : 26888 キロ 調味料 : 7170 キロ 飲料 : 6274 キロ 菓子等 : 4481 キロ

## フードバンクTAMAさんには感謝、感謝、感謝です

「こすもす・だれでも食堂」は2016年から八王子市の片倉にて、地元の有志と学生が一緒に立ち上げた子ども食堂です。名前にある通り「だれでも来いい」をモットーに活動しています。新型コロナウイルス流行後以降は、食事の提供を取り止め、食料配布に切り替えて活動を継続してきました。最近では困りごと相談や学習支援にも力を入れています。

私たちは月に1度の活動でおよそ50の家庭に食料を配布しており、直接取りに来ることが難しい方のために自宅まで食料をお届けすることもあります。配布する食材はフードバンクTAMA様をはじめ、地元の企業や個人からの寄付を中心にを集めています。おかげさまで毎回各家庭にダンボール一箱に収まりきらないほど、充実したたくさんの食材をお届けすることができます。特に提供いただいているお菓子の数々は、お届け先の子どもたちに大変好評です。お菓子を見て笑顔になる子どもたちの姿を目にする時は、活動を続けていて良かったと思える瞬間です。

私たちが食料をお渡しする際に心掛けていることがあります。それは顔を合わせて話すことです。ちょっとした会話の中で日々の生活の様子を聞いたり、何か困りごとを抱えていないかどうか、常に気を配るようにしています。必要に応じて行政や諸団体の相談窓口につなぐこともあります。月に1度の活動ではありますが、食材を貰った方がほっと一息つける、困ったときに頼れる場所となる、おせっかいに映るかもしれません、そんな活動でありたいと考えています。

私たちの食堂は、地域の居場所づくりを目指して活動をスタートさせました。その思いは、新型コロナウイルスの流行で活動が制限される中であっても、決して忘れる事はありません。フードバンクTAMAの皆様、並びに食料を提供してくださっている皆様、本当にありがとうございます。今後とも「こすもす・だれでも食堂」をどうぞよろしくお願いします。

山本 裕貴(こすもす・だれでも食堂)

## フードバンクTAMAの皆さまへ

いつもお世話になっております。

私たちは小平市で活動しているひとり親（シングルマザー・シングルファーザー）の当事者団体「小平クローバーの会」と申します。離別・死別とひとり親になる背景はそれぞれですが、一人で子どもを育て、働き、家事をこなす苦労は皆一緒です。ひとり親だから分かることや抱える悩みに共感し、励まし合いながら活動しています。ただ慰めあうだけではなく、共感の先には前向きに進む姿があります。

そんな私たちですが、昨今のコロナ禍による生活の変化にはかなり惑っています。仕事を失くしたり、雇用の形態が変わったり等で収入が激減した家庭も多々あります。そんな中、真っ先に打撃を受けるのは「食」です。常日頃、削れるものを削った質素な生活をしていると、すぐに目に見えて減らせるものといえば食費になってしまいます。食べ盛りの子どもを抱え、食費を削る…せめて食べる物は我慢せたくないと思う親心。とても切なくて、そんな状況を何とかしたくて、思い切って「フードバンクTAMA様へ痛切なメールを送った日の事は忘れられません。すぐに支援の手を差し伸べていただく事ができました。おかげさまで今では会員皆が安心して食事取れるようになりました。毎月いたたく種類豊富な食品の数々は空腹を満た

してくれます。空腹が満たされると元気が出ます。元気が出ると頑張ろうと思えます。フードバンクTAMA様からはただ食品を受け取るだけではなく、希望や勇気と一緒にいただいています。また、第三者として見守ってくださる姿勢はポカポカと心が温まります。

いつも私たちの笑顔を支えてくださり、ありがとうございます。形では買えないものを一緒にくださることに心から感謝の気持ちを込めて…

藤井 洋子 (小平クローバーの会・会長)